

平成30年度

先端電子材料・ デバイス技術 フォーラム

2018.7.12 木 13:00~17:00

開催挨拶 原 直紀 電子材料・デバイス技術専門委員会委員長〔富士通研究所〕

会場：一般社団法人 電子情報技術産業協会
東京都千代田区大手町1-1-3
大手センタービル4階（401~403会議室）

参加費：会員 3,000円（税込み）
一般 7,000円（税込み）

定員：80名

申込み方法：裏面に記載のURLより「参加申込みフォーム」
へ必要事項をご記入の上、お申し込みください。

第1部 招待講演

1 13:05~13:45
AIはこころの病を診ることができるか？
—人工知能による精神疾患症状定量の試み—

岸本 泰士郎 氏 慶應義塾大学医学部
精神・神経科学教室 専任講師

精神疾患は人類の「障害を抱えて生きる年数」において最大の割合を占める。一刻も早い克服が望まれるが、精神科領域の研究開発は多くの壁に直面してきた。その一つが、症状評価における客観性や定量性の乏しさである。演者らは、AIを用いた医師の暗黙知の形式知化に取り組んでいる。講演では、その研究経過等につき紹介する。

2 13:45~14:25
脳型情報処理のための時間領域アナログ演算方式
回路とアナログメモリデバイス

森江 隆 氏 九州工業大学大学院
生命体工学研究科 教授

現在主流のデジタル方式の人工知能処理用演算回路に対して、2桁以上の演算効率を実現できる可能性のある時間領域アナログ方式の脳型演算回路と、それに必要なアナログメモリデバイスの開発状況を紹介する。

3 14:25~15:05
HEMTの発明とイノベーションの経緯

三村 高志 氏 株式会社 富士通研究所
名誉フェロー

1980年に発表したHEMT（High Electron Mobility Transistor：高電子移動度トランジスタ）は、様々な情報通信イノベーションに貢献すると同時にさらなる高度化に向け、世界的な研究開発は現在もきわめて活発である。講演ではHEMTの初期の開発経緯を振り返り、発明の背景や実用化を成功させた要因について議論する。

司会・進行 安田 哲二

電子材料・デバイス技術専門委員会幹事
〔産業技術総合研究所〕

第2部 電子材料・デバイス技術 調査報告会

4 15:15~15:50
非ノイマン型情報処理へ向けたデバイス
技術動向

工藤 知宏 氏

非ノイマン型情報処理へ向けたデバイス技術分科会 委員長
東京大学情報基盤センター ネットワーク研究部門 教授

5 15:50~16:25
ヒューマンケアデバイス・システム
技術動向

田中 徹 氏

ヒューマンケアデバイス・システム技術分科会 委員長
東北大学大学院 医工学研究科 教授

6 16:25~17:00
IoT時代のエネルギーマネジメント
技術動向

舟木 剛 氏

IoT時代のエネルギーマネジメント技術分科会 委員長
大阪大学大学院 工学研究科 教授

一般社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）では、IT・エレクトロニクス産業の国際競争力の強化、国内基盤技術の強化に向けて「電子材料・デバイス技術専門委員会」を設置し、今後の発展に不可欠な電子材料・デバイスの技術の動向調査を行っています。このたび「電子材料・デバイス技術専門委員会」では、下記により技術フォーラムを開始し、平成28年度から2年間で実施した「非ノイマン型情報処理へ向けたデバイス技術」、「ヒューマンケアデバイス・システム技術」、「IoT時代のエネルギー管理技術」の各分科会活動を紹介するとともに、調査活動と関係の深いエキスパートの皆様、岸本泰士郎氏（慶應義塾大学）、森江隆氏（九州工業大学）、三村高志氏（㈱富士通研究所）をお招きして、ご専門分野について、またご研究内容等についてご紹介いただくこととしております。この機会に関係者の皆様にご参加を頂き、各社のビジネスにおける飛躍の契機に役立てていただければ幸いです。

JEITA

- 

QRコードからお申込みいただけます。

-

■JR「東京駅」徒歩10分
■東京メトロ 千代田線・東西線・半蔵門線・丸ノ内線・都営三田線
「大手町駅」※C9出口より徒歩1分
(各路線・各駅ともビル地下1階連絡通路より直結)